

Tibero DBMS「2016大韓民国産業技術R&D大戦・技術大賞」長官賞受賞

持続的なR&D投資により、韓国国内及び海外市場での影響力を拡大

韓国市場だけでなく、海外市場でも注目を集めている「Tibero(ティベロ) DBMS」が産業通商資源部長官賞を受賞し、その技術力と市場性が改めて認められた。

ティーマックスソフト(代表取締役 張仁洙)は17日、ソウル三成洞のCOEXで開催された「2016大韓民国産業技術R&D大戦・技術大賞」授賞式で、自社のTibero DBMSが「大韓民国技術大賞」の産業通商資源部長官賞を受賞したことを明らかにした。

産業通商資源部は毎年、産業技術の重要性に対する国民の共感を得るとともに、韓国の技術力を広く知らせるため、新製品の開発企業(機関)及び韓国国内の産業技術振興に貢献したエンジニアを賞する「大韓民国技術大賞」を開催している。同授賞式では、技術の独創性、難易度、拡張性、産業財産権等の技術開発能力(R&D体制)と事業化(基盤の構築、事業性)などを評価して授賞している。

今回、産業通商資源部長官賞を受賞したティーマックスソフトの「Tibero 6」は、2013年韓国情報通信技術協会(TTA)が主管した「TTA試験認証大賞」の受賞と、2014年未来創造科学部が主管した「第1回 大韓民国ソフトウェア品質大賞」の受賞に続く3回目の受賞となる。

2003年Tiberoの初リリース以来、たゆまぬ研究開発を通じて培ってきた技術力と製品の安定性をもとに、現在は、韓国国内及び海外で約650社以上の顧客企業と1800件あまりの導入事例を確保しており、各産業への導入事例を拡大し続けている。

近年、グローバル製品によるDBMS市場の寡占化に伴う高いライセンス費用や保守費用などの問題からコスト削減への声が高まっており、代替DBMSを求める顧客が増えている。これを受け、グローバル製品に比べ5年間の総所有コスト(TCO)が最低47%以上削減できるTiberoがさらに注目を浴びている。

同製品は、ソウル科学技術大学校や延世大学校などの行政システムに導入されており、大学からも高い関心が寄せられている。「Tibero 6」の場合は、2015年5月のリリース以来爆発的な市場拡大を遂げ、Tiberoの売上高は2014年比で49%以上成長した。

さらに、気象庁、政府統合電算センターの国土交通部、行政自治部、交通安全公団、水資源公社、韓国電力、ソウル市バス情報システム(BIS)など、およそ40の業務システムに導入された。

Tiberoは、海外市場においても技術力と合理的なコストで注目されており、2014年マレーシアの労働局をはじめ、2015年には中国、インド、ブラジル、ロシアなどの主要システムにも導入され、その性能が海外でも認められつつある。

特に、ロシア独自の国民カード決済システム(NSPK、National Card Payment System)に導入されたTiberoの事例は、ロシアのCIO(最高情報責任者)が選定した「最優秀プロジェクト賞」を受賞した。

ティマックスソフトの張仁洙代表取締役は、『今回の産業通商資源部長官賞の受賞により、「Tibero 6」の技術力と技術の独創性が実証され、韓国国内及び海外市場で韓国ソフトウェアの事業性が認められたという点で、その意義は大きい』と話し、『最近のグローバルIT環境においてビッグデータやクラウドへの取り組みが活発化している中、ティマックスソフトが技術の主導権を握られるよう、ビジネス能力の向上に力を入れていきたい』と述べた。

2016年11月17日 eニューストゥデー < 著作権者 : ©eニューストゥデー >
ソース : <http://www.ewnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=642300>

Tibero受賞が報道された韓国のニュースメディア各社

